

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月12日

認定こども園 菅内幼稚園
園長 阿野 圭太郎

1. 本園の教育目標

・自分で考え、行動する子ども ・おもしろいものをもった子ども ・あいさつができる子ども ・仲良く遊べる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

園庭を含む園舎内外での様々な保育活動や園生活を通して、子どもたちの非認知能力に加えて「道徳的情操」「情緒的情操」「美的情操」「科学的情操」が養われるような環境づくりをすべての保育者が連携し考え、実践していく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	新たな造形カリキュラムに基づき、0歳児から5歳児までの体系的かつ、子どもたちに質の高い教育・保育環境を提供するとともに、その活動内容の「見える化」に努める。	B	保護者アンケートによると「1.十分に達成されている」「2.ほぼ達成されている」の合計が94%という回答をいただいた。造形カリキュラム導入の目的やそれに基づいた造形活動の理解と実践、それにより広がっていく子どもたちの興味・関心を踏まえた発展的な活動の展開、活動内容の「見える化」などが達成できた保育者が多かったが、まだ達成できなかった学年・クラス・保育者があった。
2	園児、あそび(場)・まなび(場)・いきものがかかり各サークル参加保護者や専門家、地域の方々と協力し、子どもたちが多くの生き物と出会うことができるよう園庭ビオトープを進化させる。	A	やまぐち昆虫楽会 角田氏指導・助言のもと、子どもたち・各サークル参加保護者・当園職員が協力して、池の周りだけでなく園庭の各所に様々な植物を植えた。それから間もなく、池の中や植栽した樹木の葉に生物が集まってきた。子どもたちが生き物を観察したり触れ合うことがしづらい箇所が池の周囲を中心に残っていることに気づいた保育者を中心に、どのように改良すればよいかディスカッションを重ね、園庭ビオトープ改造計画を立てた。そして、それをもとに2つ目の湿地帯ビオトープを含め、子どもたちや職員が協力して作り上げていった。そして、これまでの園庭ビオトープづくりの試行錯誤の取り組みが評価され、「全国学校・園庭ビオトープコンクール2025」において学校・園庭ビオトープ賞を受賞した。
3	当園の目指す保育内容をより具体化した週案(保育WebMap)としてふさわしい内容にしていくため、各クラスの保育に携わるすべての保育者が作成・実践に携わっていく。	C	各クラスの保育に関わるすべての保育者が作成・実践に携わるといのが当園の保育WebMap型週案のルールである。主体的に作成段階から取り組もうとする、CL以外の保育者の人数が、完成したWebMapや各保育者の自己評価を見ると今年度は昨年度と比較し増加していた。ただし、そのルールを正しく理解していなかったり、主体的に関わろうという姿勢があまり見られない保育者も一部いたり、保育WebMapに記載がない活動を実践するケースがあったりするなど、成果は十分ではないといえる。

評価基準【A…十分に達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60~80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40~60%) D…取り組みが不十分である(40%以下)】

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目の内、評価項目2はおおむね達成されているが(80%)、3については取り組みおよび成果とも十分ではなく、1についてはほぼ達成されているが課題も残ったため。

評価基準【A…十分に達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60~80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40~60%) D…取り組みが不十分である(40%以下)】

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	「あいさつが自然とできる子ども」の育成	保護者アンケートの「1.十分に達成されている」「2.ほぼ達成されている」の合計が約72%、「3.取り組まれているが成果が十分ではない」が約24%という結果、および日ごろの子どもたちの園生活や園外保育時の様子を踏まえ、保育者間でこれらの現状について日頃から意見交換を行う。そして、子どもたちにとってのあいさつの意義を考え、すべての教職員が同じかかわり方・伝え方ができるようにしていく。また、園での教職員のかかわり方・伝え方について各家庭とも連携を図っていく。
2	保育WebMap型週案のルール定着および当園の教育・保育方針の落とし込み	今年度までの保育WebMapシートでは、各保育者の保育キャリアや能力により、作成(立案)・実践・振り返り(評価)の一連の流れがスムーズに行うことができる保育者と、難しさを感じる保育者が見られた。来年度は、後者の保育者向けに、もう1種類のシートを作成し運用していく。
3	造形カリキュラムに基づく造形活動の理解・実践および活動内容や成果の「見える化」	造形カリキュラムとその理論の理解浸透のため、園外研修講座へ保育者が参加し学んだり、園務分掌担当者(「表現」「造形園内研修」)を中心とした園内研修の企画・実施などを行ったりする。また、子どもたちの興味・関心の広がりや期待と保育者の学びのために、当園カリキュラム作成にあたり指導・助言をいただいた外部講師によるワークショップを年に数回開催する。そして、日頃よりコミュニケーションの送信・園内へ掲示したり、年度末に0歳児から5歳児クラスまで1年間の造形活動の取り組みの成果を保護者に発表する場として「作品展」を開催する。なお、作品展実施に当たっては先述の外部講師に監修を依頼する。
4	絵本カリキュラムの導入および園内の絵本環境の充実	毎日、絵本を始めとして、多くの「ことば」に触れる環境づくりが保育室内はもとより園舎内で不十分であった。各保育者の経験とスキルに依存する部分が多かったため、全学年・クラスや園舎内そういった環境を保障するため、絵本カリキュラムの導入および園務分掌において絵本カリキュラムや言葉領域の園内研修を定期的に行っていく。
5	たしかな教育・保育の提供	教育・保育方針の1つである「たしかな教育・保育を提供しよう」に基づき、私たちは認定こども園菅内幼稚園における教育・保育のprofessionalとして、子どもたち一人一人にとって最善の保育を一生懸命考え、提供するよう努める。具体的には美的情操・科学的情操を養うような、0歳から5歳児まで体系的な造形カリキュラムの作成、大型固定遊具には頼らない園庭や園舎内および地域の「あそび」と「まなび」環境を保育者間で考え作っていくために「園庭マップ」「園舎マップ」「お散歩マップ」などを作成し、日々改良を加えていく。
6	保護者への様々な情報発信	当園の教育・保育方針に沿った保育、子どもたちの安心・安全な園生活保障するために、園が取り組んでいる、またはこれから取り組もうとしていること、あるいは、各クラスで日々行っている保育内容や子どもたちの生活の様子について「目的」や「ねらい」を明確にしつつ、情報発信を積極的に行っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

R7.3.2実施 / 出席者: 6名(7名中) アンケート回答者: 6名(7名中)

1. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか。

平均:3.8 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

環境づくりとしての細かい計画も適切であり、年間を通して自然と関わる機会も多かったように感じた。ただ、「見える化」やWebMapにおいては、保護者が求めているものとのすり合わせが必要なのではとも思う。評価項目が具体的でわかりやすく、園の教育方針を大切にされている点が明確であった。日々の活動の中で、目標に沿った取り組みが行われていることが伝わってきた。

造形カリキュラムやビオトープなど、とてもよい環境でうれしい。

園の方針に沿って適切に設定されている。

保育WebMapについて、(保育者の自己評価は)年に1度年度末のアンケートではなく、もう少し早い段階で「正しく理解していない」「関わろうとしない」職員の存在などには気づけたのではないだろうか。

2. 評価結果の内容は適切であったか。

平均:4.0 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

園庭ビオトープも進化し、賞まで受賞されているにも関わらず、園庭を見に行くことができる機会が保護者はほぼなく、もったいないと感じる。子どもたちも自然と関わりいろいろ学んだことをアウトプットできる場がもっとあると、保育に活かせるビオトープになるのではと感じた。

子どもたちの様子や園の実践がていねいに分析されていて、適切であると感じた。週案の評価はCだったが、個人的には、園での活動内容やそのねらいを知ることができる貴重な資料として毎回ありがたく拝見していた。子どもの話と合わせて園での経験をより深く理解することができた。

子どもが虫やカエルに興味を持ち、外遊びの話を楽しそうにしてくれる。ビオトープは最高。

評価結果の内容は適切である。日頃から子どもたちの成長を大切にしながら保育を行ってくださっていることが伝わった。

園の現状を踏まえ、適切に設定されていると感じた。今後の取り組みによって、さらに充実した園づくりにつながると思う。

今年度、この評価項目は「A」評価かなと想像していたが、実際は「B」評価だった。年々良くなってきている菅内幼稚園だが、保護者以上に先生方の意識の高さを感じている。

2. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか。

平均:3.8 (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

あいさつの取り組みを強化するのはとても良いと思う。子ども同士、保護者や教職員皆が元気に笑顔であいさつできるようになるだけで、園内の雰囲気も変わると思う。また、保護者への園からの情報発信については、園での過ごし方やルール等にはきちんと理由があることがほとんどだが、それがうまく保護者に伝わらず、誤解を招いてしまっているものも多いように感じる。保護者からの意見を定期的に聞くことができるように、意見箱のようなものを設置し、掲示板などに園からの回答も発信してはどうだろうかと感じた。

今後取り組むべき課題については、園の現状や保護者アンケートの結果を踏まえて適切に設定されていると感じた。

家でも挨拶は教えているが、なかなか自分から進んで言えておらず、あいさつができるように指導して下さっているのはありがたい。昨年の「いるぺん万博」とても最高だった。来年度もぜひ実施してほしい。

「あいさつが自然とできる子ども」について、先生はいつも元気いっぱいにあいさつをして下さる。また、家庭でもあいさつは大切にしているつもりだが、なかなか子どもには伝わらない。絵本など客観的に考えるきっかけが何かあれば良いと思う。